

### 1. 開催日時

令和 4 年 2 月に開催予定であったが新型コロナウイルス感染拡大予防の為、審議は文章による意見交換で行なった。

### 2. 参加者

委員長：吉岡忍

委員：竹中尚人、渡邊健一、池田哲雄、砂川浩慶、宮崎美紀子、笹田佳宏

株式会社サテライト・サービス：加藤浩輔、岡崎洋三、福本洋、窪田正利

株式会社スペースシャワーネットワーク：西村和晃、福田哲兵、藤島克之

CJ ENM Japan 株式会社 三澤法夫、金琴實

### 3. 議題

- 1) 『The Great Artist ～小坂忠～』 スペースシャワーTV で放送
- 2) 『STREET DANCE GIRLS FIGHTER』 Mnet で放送

議題番組について各委員から次のような意見が出された。

#### 1) 『The Great Artist ～小坂忠～』

- ・ 不覚にも、私はこんなに素晴らしいミュージシャンがいることを知らなかった。小坂が歌う、坂本九の「上を向いて歩こう」から始まる頭出しも意外性があった。坂本美雨の喋りも、飾り気がなくて絶妙なリズムを奏でてくれていた。さらに娘さん、奥さんの高叡華と続く番組構成も、余分な材料が省かれていて、実に必要不可欠な条件を満たしていて、素晴らしかったと思う。佐藤タイジのメッセージカードは、デジタル化してインターネットで販売してみたくなるような中身の素晴らしさだった。この番組には、音楽、言葉、映像といったさまざまなコンテンツ制作の可能性が凝縮されていて、近未来のメディアの方向性さえも示しているといえる。
- ・ 番組内容は、第一級の音楽史資料になっている。特に、狭山の旧米軍住宅にスポットを当てた事をふくめ、JPOP 音楽史の肝の部分・今まで光が当たらなかった部分をえぐっていることは、素晴らしいと思う。
- ・ アーティストコメントが文字だけで表示され、使われている写真のセンスも良いので「なが

ら見」を許さない、つまり、集中してテレビ画面を見なければいけない番組だと感じた。初回が小坂忠、二回目がC h a r という人選も音楽チャンネルの矜持を感じる。無料放送が同様のコンセプトで番組を作ったら、こういう人選にはならず、単に有名人、単にヒット曲がある人から順に出したと思う。小坂忠の回のナレーションが坂本美雨、C h a r の回はハマ・オカモトという人選もよかった。「レジェンドを受け継ぐ者」と受け止めた。

- ・ 映像そのものが綺麗に処理されており、インタビュー、コンサートそれぞれが美しく、1時間があつという間に過ぎた番組であった。登場する人々も、小坂忠本人も含め、貴重な方々で、70～80年代の音楽シーンが蘇る貴重な番組となっていた。
- ・ 番組は小坂忠への長時間インタビューや関係者の証言・コメントで構成されるが、各証言がいささか散漫に感じられるところは、残念。制作者が対象とするアーティストの「核心」をもっと大胆につかみ、多少は一方的でもよいから、個々のアーティストが時代と社会に持った意味を描くほうが、個性的な番組になるような気がする。
- ・ 小坂忠の歌を聞いたことが無かったため、今一つ番組に入れこめなかったが、転機となる娘さんのやけどを通じて、クリスチャンになり音楽の幅が大きく広がるなど、一人のアーティストの音楽を通じた人生を紹介するという物語として楽しめた。少年院や養護学校での演奏について語る小坂忠の「歌ってこういうことが出来るんだ」「音楽の可能性はすごいな」という語りとともに、小坂忠の表情がとても良かったと感じた。また、長い闘病生活を語るシーンでも「みんなで歌を歌うと別世界」「力が沸く」という言葉も音楽の可能性のすごさを表現していたと思う。

## ※委員からの質問・意見に対し株式会社スペースシャワーネットワークから回答

### 【意見】

小坂さんは牧師でもあるので、教会で讃美歌を熱唱してもらいたかった。

### 【回答】

ご意見ありがとうございます。企画時点でアイデアとしてはあったのですが、今回は小坂さんの代表作とも呼べるアルバム「ほうろう」を中心とした彼の偉業と、いまでも現役でご活躍中のアーティストとしての小坂さんのパフォーマンス映像がふんだんにありましたので、そちらをメインに放送しよう、という判断になりました。

### 【意見】

初回が10月、第二弾が2月。今後、どれくらいの周期で番組を作っていくのか。ターゲットは？

### 【回答】

周期については、まだはっきりと固定しておりませんが、番組として取り上げるべきタイミン

グ（周年など）を見計らって、編成を組んでいく予定です。

昨今の世界規模のジャパニーズ・シティ・ポップ再評価でも証明されているように、音楽はときに世代を超えてタイムレスな芸術作品として評価されることがありますし、それが音楽の持つ魅力だと思っております。この番組についても小坂さんの音楽をよく知る、50～60代の視聴者様に楽しんでいただきつつ、スペースシャワーTVのコアターゲットの若者音楽ファン層にも小坂さんのようなタイムレスな魅力を持つアーティストをご紹介します、新たな音楽との出会いのお手伝いができるばと考えております。

**【意見】**

若年層ターゲットのスペースシャワーTVが果たしてこう云ったコンテンツで新たなユーザーを取り込めるのだろうか？いまひとつ、そこを繋ぐアイデアが欲しい。

**【回答】**

ご意見ありがとうございます。おっしゃるように、若い世代にレジェンドアーティストのタイムレスな魅力を伝えることが隠れたテーマでもありますので、今回の取材でいうところの、サニーデイ・サービスの曽我部さんとの対談のような取り組みをより注力していきたいと思っております。

**【意見】**

番組がドキュメンタリー手法に徹しているため、このアーティストがどんな偉業があったのか、なぜ伝説的存在になったのかを、一度も番組内で言語化していません。

**【回答】**

おっしゃる通り、ドキュメンタリー的要素が多かった回だったかと感じており、改善していきたいポイントだと思っております。60分という、レジェンドアーティストのキャリアのすべてを語るには十分とはいえない時間で、コメント、インタビュー、対談、パフォーマンスなど様々なアプローチでいかに小坂さんが偉大なアーティストだったかを説明しようと試みましたが、小坂さんをよくご存知ない視聴者様に向けた、より説明的なパートは必要だったかもしれません。

**【意見】**

小坂忠の歌を聞いたことが無い人々にも小坂の声や歌の魅力を知ってもらうためには、もう少し曲をきちんと紹介して欲しかった。

**【回答】**

ライブパフォーマンスはかなりのボリュームでお見せできることができましたが、小坂さんのディスコグラフィについて実際の楽曲も交えて紹介するパートは、より充実させる必要はあったかと思っております、今後の参考にさせていただきます。ご助言有難うございました。

## 2) 『STREET DANCE GIRLS FIGHTER』

- ・ たいへん見ごたえのある、素晴らしい作品。韓国メディアは、J O 1のオーディション番組をはじめ、この手のオーディションものはノウハウの蓄積があり、日本でも人気だが、その真骨頂を見せてもらった。
- ・ 韓国エンターテインメントの層の厚さを実感できる番組だった。ほぼ女性だけの登場人物で高校生、マスターとも率直に喜怒哀楽が示されていて、興味深く拝見できた。
- ・ Kポップグループを見れば韓国のダンスのレベルの高さはわかっていたが、その裾野の広さを実感した。女子高生たちはもちろん、審査にあたるマスターのキャラクター、言動が興味を引いた。合否の決め方と、マスターを指名するシステムも番組を盛り上げている。
- ・ 韓国女子高生たちのストリートダンスは、どれも圧巻。もちろん上手下手はあるのだろうが、自分たちで衣装から振り付けまで考え、自分たちで踊っている。その自由さが伝わってくる。マスターたちの評言、感嘆、表情も豊か。折々に挿入されるバックステージの様子も、気が利いている。
- ・ 私が知る限り、昨今のコリア映像コンテンツの殆どは編集スキルが優れていると感じる。一言で云えば、「飽きさせない」編集である。これはアメリカの映像コンテンツを徹底的に分析した結果ではないかと思われる。この番組も「ツカミ」でユーザーを引き込み、前半で想像力を増幅させ、中盤で納得させた上で軽く振り返り、終盤で興味のピークに誘導し、次回に続けると云う手法が巧みにテンポ良く取り込まれている。(番組編集に関しては同様の称賛意見複数あり)
- ・ マスターが高校生のダンスを審査するだけでなく、高校生にユニットを組むマスターを選ばせるという構成が非常に楽しめる番組となっている。高校生のダンスをマスター達が本当に楽しみ、そして自分達を選んでもらうためのアピールのテンションがどんどん上がって行くのを見て、私もテンションが上がった。そうした中でも、審査は真剣に行っているという姿も伝わり、まさに双方がバトルをしている姿が、秀逸のエンターテインメント番組になっていると感じた。
- ・ ダンスだけでなく随所で、控室などでの高校生らしい言動や姿、普段の表情など素の高校生の姿も紹介されており、こんな子たちが素晴らしいダンスを披露しているギャップが良かった。
- ・ 演出は非常にたくみで、構成にメリハリがある。同じようなシーンを続けず、コミカル系がでたら、次はビジュアル系、エピソードもケガや、仲たがいや、プロ予備軍や、楽屋の葛藤や、ありとあらゆるドラマが用意されていた。もちろん偶然ドキュメントで撮れたものでしょうが、それにしても、ちゃんとカメラで追いかけて、きちんと描いていた。それを、余計な要素をはぶいて、骨子だけにして伝える演出は見事。

- ・ 審査を行うダンサーと、実力を披露する若年層のダンサーとの相関関係が、いま一つ理解できなかった。「ラ・チカ」を指名する女の子たちの心理も、よく分からない。
- ・ 日本と韓国を比較するとまああることではあるが、「似て非なる」面を強く感じた。特に高校生が自分の考えを堂々と述べてパフォーマンスしている姿は“プロフェッショナル”な「強さ」が印象的だった。

#### ※委員からの質問・意見に対し CJ ENM Japan 株式会社から回答

##### 【質問】

放映後の日本の視聴者の反応はどうだったのだろう。

##### 【回答】

視聴者の方々からいただいた感想としては「面白かった」「高校生にも関わらずダンスのレベルがすごかったので見入ってしまった」など、普段ダンスに興味がない層の方からも好意的なご意見をいただきました。

##### 【意見】

審査する方の批評と、ダメ出しする科白も、同じようなものばかりで、響くものは少なかった。笑いを取るのか、真剣さで掘り下げるのか、はっきりいって中途半端。何となく全体的にテーマと目的が絞れておらず、内輪ウケで終始していた。

取材カメラをいろいろなところへ派遣しているのにも関わらず、焦点が絞り切れていないから、消化不良を起こしてしまう。審査する方とされる方も、もっとダンスそのものの実力を評論して欲しかった。

##### 【回答】

当番組に先駆けて放送されていた「STREET WOMAN FIGHTER」という女性ダンサーたちのバトルをメインとした番組があり、その番組に出演したダンスクルーのリーダーたちが、10代で頑張っているダンサーたちが活動しやすくなるため、クルーを結成し、教えていくという番組です。「STREET WOMAN FIGHTER」を機にダンサーたちへの注目が再度高まる中、「STREET WOMAN FIGHTER」に出演したクルーのリーダーたちが10代のダンサーたちを成長させていく番組となるため、1話はその師弟関係の基礎となる部分となり、各リーダーが選んだダンサーチームと一緒にバトルを繰り広げていく過程で、師弟関係というものが描かれていく内容となっております。審査するクルーたちは、普段はダンサーとしての一面しか見せてこなかったが「STREET WOMAN FIGHTER」という番組を通して、ダンサーに止まらない活躍を韓国のテレビで見せている一面があり、彼女たちのキャラクターを最大限見せた形の編集となっております。

**【意見】**

ダンス実演の途中でマスターのリアクションが挟みこまれ、ダンスがブツ切れになるのが見づらい。実演はノンストップで見ないと集中できないし、迫力も損なわれる。

MCのカン・ダニエルは何のために出ているのかわからない。

話し言葉には字幕が出るが、出演者、所属クルーの紹介など字幕部分にも日本語訳をつけてほしい。誰が誰なのか最初はわからず、番組に入り込むのに時間がかかった。

**【回答】**

パフォーマンスの途中でリアクションを入れるのは韓国 Mnet ならではのあり、テレビではリアクションありのバージョンを、YouTube にてリアクションなしのフルバージョンを見せることで、テレビとデジタルの両方を行ったり来たりさせる仕掛けとなっております。

MC については当番組に先駆けて放送されていた「STREET WOMAN FIGHTER」の MC も務めたカン・ダニエルが担当しており、彼自身も実際にストリートダンスなどを経験したアイドル界の中でもトップを争うダンサーとして MC に抜擢されております。

字幕で表現できる内容と文字量にどうしても制限があるものの、出演者やクルー紹介などについては今後別の形で表現できる部分があるか検討するようにいたします。

**【意見】**

日本語字幕のテロップを右側に出したり、左側に出したりしていて、とても煩雑で見ていると疲れる。右側だけにだすと、出演者の顔がかぶるから、その時は左側に出すといった配慮ならわかるが、そういうことでもなく、恣意的に右になったり、左になったりしている。これは、どちらかに決めて出さないと、大画面で見ている視聴者はついていけない。

**【回答】**

基本ルールとしてバラエティに関しては縦字幕での表記がベースとなっております。理由としては本国の演出テロップにかぶらないようにしており、縦での字幕となります。また、視聴者に対して右は音声関連の喋りテロップ、左は演出テロップを翻訳した演出テロップとなっております、こちらが業界内では通常のルールとなっておりますため、喋りと演出を明確にわけるべく弊社もこの方法で進行しております。

**4. 次回予定**

令和4年6月中の開催を予定。議題対象番組は調整中。

以上